

| | | | |
|-------|------------|--------|--------|
| 講義名称 | 国際関係論 | 担当教員名 | 齋川 貴嗣 |
| 科目群 | 社会科学 (SOC) | | |
| 科目区分等 | 政治 | 単 位 | 2 |
| 対象学年次 | 1年・春学期 | ナンバリング | SOC112 |

| | |
|----------------|--|
| 授業のキーワード | 国際関係の歴史的变化、主権国家体制、グローバル化 |
| 授業の概要 | この授業では、私たちが現在当然のものとして考えている国際関係が歴史的にどのように形作られ、発展し、変化してきたのかを考えます。歴史的な文脈を踏まえつつ、国際関係論の基礎概念や理論についても解説します。 |
| 期待される学習成果 (目標) | 教科書的な国際関係論の知識を習得するだけでなく、大きな歴史的視野を持って国際関係の諸問題を考えることができるようになることを目標とします。 |

| 授業展開 | | |
|------|---------------------|--|
| 回 | テーマ | 内 容 |
| 1 | イントロダクション | 授業の概要を説明し、国際関係の変化を理解するために歴史的視点が重要であることを示します。 |
| 2 | 主権国家体制以前の世界 | 現代的意味での国際関係が成立する以前の中世ヨーロッパおよび東アジアについて概観します。 |
| 3 | 主権国家体制の成立 | 主権国家体制の特徴を外交、国際法、勢力均衡といった点から整理し、歴史的展開を考察します。 |
| 4 | 主権国家体制の世界的拡大 | ヨーロッパで生まれた主権国家体制が、帝国主義として他地域に拡大していく過程を検討します。 |
| 5 | ヨーロッパ的主権国家体制の動揺 | 第一次世界大戦について、ヨーロッパだけでなくアジアでの展開についても注意して解説します。 |
| 6 | 主権国家体制の再構築 | 第一次大戦後生まれた国際連盟と不戦条約について、それらの意義と限界を考察します。 |
| 7 | 主権国家の超克？ | 第二次世界大戦の起源ともいえる満州事変以後の日本の行動とその世界的連関を検討します。 |
| 8 | 主権国家体制の変容① | 第二次世界大戦中の戦時協力から生まれた国際連合について、その基本的特徴を解説します。 |
| 9 | 主権国家体制の変容② | 第二次大戦後に各地で展開した脱植民地化の動きとその問題について台湾を事例に検討します。 |
| 10 | グローバルな冷戦の展開① | 第二次世界大戦後の国際関係を規定した米ソ冷戦のグローバルな展開を考えます。 |
| 11 | グローバルな冷戦の展開② | 1970年代以降の冷戦と国際関係の構造的変化を検討します。 |
| 12 | 冷戦の終焉とグローバルな市民社会の形成 | 冷戦の終焉を一般市民の動きから明らかにし、ポスト冷戦時代の基本的特徴を考察します。 |
| 13 | 地域統合の進展 | ヨーロッパ共同体という地域統合の歴史的展開を中心に、主権国家を超える試みを分析します。 |
| 14 | テロの世紀としての21世紀？ | テロが頻発する現代国際社会の特徴と問題を、人の国際移動という視点から考えます。 |
| 15 | まとめ | 一学期間の授業を振り返り、要点を確認します。 |

| | |
|----------------------|---|
| 定 期 試 験 | 試験は論述式の問題で行います。持ち込みは不可。 |
| 授 業 時 間 外 学 習 | 日常的に新聞の国際面に目を通して、今世界で何が起こっているのかについて関心を持つようにしてください。また、興味を持ったトピックについては積極的に参考文献を読むように心がけてください。 |
| 評 価 方 法 | 基本的には定期試験の点数で評価しますが、毎回のリアクションペーパーも加味します。 |
| 使用する教科書 (必ず購入してください) | なし。毎回ハンドアウトを配布します。 |
| 参 考 文 献 | 入江昭『歴史家が見る現代世界』講談社現代新書、2014年。 木畑洋一『二〇世紀の歴史』岩波新書、2014年。 その他、授業において適宜紹介します。 |